



19 親子ひろばピーマン

神 栖 市

サロン開設年月日	平成18年11月
開催日及び開催頻度	毎週火曜日(2回)
開催拠点	神栖市保健センター 集会室B
代表者氏名	焼貝 和子
代表者電話番号	☎ 050-7570-4306
1回の参加人数	平均25組
1回の運営スタッフ数	平均7人
参加費	無料

年間予算額及び主な財源

年間予算額	111,000円
(内訳) 助成金	100,000円
自主財源	11,000円



サロンのテーマ・目的

- 0~2歳くらいの親子・これから親になる妊婦さんの居場所と情報交換の場所。
- ママさんのおしゃべりで、うつぶん・不安を吹き飛ばす場所。
- 他のママさんの子育て・考えを聞ける場所。

活動の概要

- コンビナートの神栖市は、転勤族で、個での子育てを強いられる親子が多いので、他の子育てママさんと繋がるお手伝いをしたい。また、地域の子育て情報や、「こんな所が子育てしていて不便なのよ」と言うママさんの声を拾い上げ、改善提案をしていきたい。

サロンの特徴

- 10時半からひろばが始まるが、入口にボランティアが2人出て、入ってくるママさんと挨拶を交わし、グループに分かれる時のために、番号を引いてもらったり、月齢を聞いたりします。
- 毎回、11時頃から5~7組くらいのグループに別れ、各グループにボランティアが入り「妊娠していた頃の思い出・子供の名前の由来・子供が泣いているとイライラする? など」そのつど話し易い御題を決めて各グループで自己紹介しながら、おしゃべり開始。
- 初参加でも、おしゃべりできるよう、気の合うママとも見つけられるよう工夫しています。
- 12時終了、2人ボランティアが出口に立って、ママさ

んとひと言ふた言会話をしながら送り出します。「また、来ます」とニコニコ顔のママさんの言葉が私たちボランティアの力になります。

身近な人材や施設など地域の社会資源の活用

- クリスマス会の時、企業へママさんへのプレゼントを依頼して、子育てに頑張っているママさんの存在に気づき、企業の男性にも、子育て親子を応援してもらっています。
- 趣味のサークルにピーマンの広場で、演奏等してもらい、地域にいる親子の存在に近づいてもらっています。
- 消防署・警察等に、ママさんが関心を持っている事、聞きたい事を事前に吸い上げ、それに応える形で、広場の中で、講演会を開催してもらっています。





サロン実施にあたって苦労したこと

人集めに関して

- ボランティア募集を広報等でPRしていますが、参加してくれる方はほとんどいません。今、ボランティアとして活躍している仲間が、友達や趣味のサークル仲間へ直接声かけしてくれています。
- ボランティアをやってみたいと、言ってくれる人もいますが、パート等働いている人がほとんどで、時間的な余裕がない様子。また、ボランティアをしている人は活動的で、幾つかのボランティアを兼務している人が多い。

活動拠点に関して

- 毎月1日に市高齢福祉課の窓口に出向いて、2か月先の会場の予約をおこなっていますが、消防署・警察・趣味のボランティア等に広場の中で公演や演奏等をお願いするに当たって、会場が確保できていない状態での依頼が難しいし、はがゆい。

しかし、保健センターでの4か月健診の時、ピーマンのひろばのPRをママさんたちに手渡ししているので、ママさんたちの安心感等を考えると、保健センターでのひろばの開催が、好ましいと思います。

財源に関して

- 神栖市社会福祉協議会交付金。また、年末のクリスマス会の時は、企業等からママさんへのクリスマスプレゼントを戴いています（花王：ドレッシング200個 ライオン：台所洗剤120本 昭和産業：スパゲティ60個 アデカ 2Lスープ80個 など）。
- ひろばでのボランティア使用のエプロンは、半額は各自が支払うようにしています。



委員からの一言コメント

ひろばの開始20分前には、もう親子連れの参加者が十数組。ボランティアの人達の動きはテキパキと素早い。総勢30組の親子、ためらいがちな親子（初参加が9組）、開始後まもなく泣出す子、勝手に遊びだす子、それらをうまく12人のボランティアの人達がコントロールしていく（後の反省会で聞いてみると、ボランティア初参加の人もいたとのこと）。

どうして、こんなにうまく自主的に動けるのか、その秘密はひろばを閉じたあとの反省会に参加してわかりました。

「楽しくやらなきゃね」で始まった反省会（地域の特性から関西弁が主流でした）、事前に作成された活動記録をもとに、当日の運営、参加者の意見、ボランティアスタッフの動きについて改善点が話し合われ、終始和やかな雰囲気の中で、1時間ほどの間に、次の親子ひろばの運営の形を全員で作っていく。これで全員が自主的にスムーズに動けるのだなとわかりました。

転勤で茨城県に来られ、育児に悩んだボランティアスタッフの皆様が次世代のヤンママにこうした場を提供し、自分達の力で地域の課題を解決しているのは大変素晴らしいと思いました。これからも楽しみながら活動をお続けください。（小菅均 委員）

サロン開催の効果

- 仕事再開や転勤、保育園入園等で、ピーマンのひろばを卒業していくママさんに、アンケートを書いてもらうが、「居心地が良かった・初めての子育てに疲れ切っていたけど、ひろばの温かな雰囲気の中で、ホットする時間が持てた・ママ友ができた・子供が小さく、行ける場所がなかったの、ここに来るのが唯一の楽しみ」等、お役に立っているようで、私たちボランティアも楽しい活動をさせてもらっています。

サロン開催の課題、今後のサロン活動への想い

- 一時期、0歳～4歳位までの親子が50組～70組位参加、乳児を寝かせている側を3・4歳児が飛び回り、危険を感じる事が増え、仕方なく0歳～2歳位までの親子と、年齢をきりました。「とっっても楽しみにしていたけど、子供が活発になってきたから卒業しなくちゃいけないんですよ」・「お腹の子が生まれても、上の子を連れて来れないなら、もうここには来れなくなっちゃう」というママさんの声。会場の確保・ボランティアの確保をクリアしないと、ひろばの回数を増やせないのが、現状です。

